

事業所名	放課後等デイサービス はぐみ	支援プログラム		作成日	2024年	10月	1日
事業所理念	ふたば福祉会の特色であり強みでもある、幼児期から学齢期、青年期、成人期の福祉事業所をこどもの意思の尊重とこどもの最善の利益を優先することを中心にすえながら展開し、そのことにより本人支援の「発達保障」の取り組みが縦糸と横糸がつながるように広がり紡がれていくように実践を追求することをモットーにしています。						
支援方針	ひとりひとりの個性を大切に、本人のニーズや願い・夢に添った支援を追求します。生活面での将来的な自立につながる取り組みや、青年期から成人期にむけての就労や日中活動の展開につながり引き継がれていくような取り組みを行います。発達の5領域全てを網羅した総合的な支援を提供し、こどもと保護者が安心して地域生活をおくることができるように学校や関係機関と密接な連携を図っていきます。地域社会の一員としてこども達とともに前向きに社会参加することで、誰もが助け合い、支え合い、一人ひとりの個性が尊重されるまちづくりを目指します。						
営業時間	学校営業日 13時45分～16時45分	学校休業日 10時00分～15時00分	送迎実施の有無	あり なし			
支援内容							
本人支援	健康・生活	生活リズムや生活習慣を整え、衛生や感染予防に配慮し健康的に安心して生活できるように支援します。基本的な体調管理に加え、こどもの特性や発達の状態に配慮しながら心身の状態を確認し、普段と違う異変に速やかに気づき対応できるよう小さなサインに留意します。食事支援では介助が必要なこどもに一人一人の状態に合った、本人の力を引き出す介助方法で安全においしく食事を楽しめるように支援します。排泄支援では、プライバシーを保護し特性や発達状態に合わせたトイレへの誘導や失禁の際の衣服の交換・オムツ交換を行います。 支援プログラムの具体例：毎日の検温、手洗い、消毒、身だしなみチェック、掃除の仕方（ほうき使い・ぞうじんの使い方・クイックルワイパーの使い方・窓ガラスのみがき方）衣服のたたみ方、タオルのたたみ方、食に対して興味をもつ食育活動の実施（おやつ提供・季節に合った食品の学習・おやつや簡単な調理実習・おやつトッピング体験）、交通安全教室（地域の中での信号のわたり方の練習、道路・歩道でのルールを身につける。自転車に乗れるようになるため練習する。）					
	運動・感覚	座った状態などでの姿勢の保持や軽い運動の促し、創造性や巧緻性を通して、感覚や指先とトレーニングを行います。（姿勢と運動・動作の向上） 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援を行います。（保有する感覚の総合的な活用） 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）をふまえ、感覚のかたよりに対する環境調整等の支援を行います。（姿勢と運動・動作の補助的手段の活用） 支援プログラムの具体例：縄跳びトレーニング、玉入れ競争、風船バレー、ペットボトルボーリング、転がしドッジボール、ダンスパフォーマンス、ストレッチ体操、ラジオ体操、園芸活動、アイロンビーズ、スライムづくり、紙飛行機作り、紙ねんど、ひっくり返し競争					
	認知・行動	こどもが意欲的に関わるような遊びや活動を通して、成功体験を積み重ね自己肯定感を高く見ます。アセスメントにより一人一人の認知の特性を理解し、特性に合わせた支援を行います。こどもに入力される様々な情報を受け取りうまく処理できるように、方法を工夫する支援に仕組み認知機能の発達を促します。物の様子、音、人、場所、時間等の概念の形成を図り、周囲の環境に本人が気づき、自発的な動きや行動を促せるように支援に取り組みます。 支援プログラムの具体例：ラキューやレゴブロックなど立体的造形物を使った創作活動、ビジョントレーニング、絵柄合わせゲーム（神経衰弱）、バランスストーン、おわりの会を通じての日付や曜日天気の確認により、感覚、数の認識の形成、お金の学習（実際の通貨を使った買い物学習）、時計や時間の認識トレーニング					
	言語コミュニケーション	いろいろな人との関わり交流を通して人と関わる楽しさを実感し、自分の言葉や表現方法で意思表达できるように支援に取り組みます。まず自分の気持ちや意思に気づけるように働きかけを行い、自分に合った手段で意思の伝達ができるよう一人一人の発するサインをきちんと把握し伝達方法を工夫します。場面に合った人との関わり方について学んでいける経験を増やし、周囲の環境の理解と意思の伝達ができるように支援に取り組みます。 支援プログラムの具体例：ことばであそぼうプログラム（自己紹介、他己紹介、友達の良いところ探し、箱のなかみはなんだろう）、絵本の読み聞かせ、すごろく・リアルすごろく、季節の行事・交流会（夏祭り、ハロウィン、BBQ、クリスマス会、お別れ会、お楽しみ会、お誕生日会）、ジェスチャーゲーム、おわりの会での発表する機会の提供。伝言ゲームや早口言葉を用いたゲーム、生活の中で起きてしまう事柄に対するロールプレイング。					
	人間関係社会性	集団に参加するための手順やルールを理解し、スムーズに遊びや集団活動に参加できるように支援を行います。（他者との関わり、人間関係の形成） 遊びを通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えや高まりにむけて支援を行います。（自己理解と行動の調整） 遊びを通じて集団で行動する機会、役割分担する支援を行います。遊びを通じてルールの理解を促す支援を行います。（仲間づくりと集団への参加） 必要なこどもには短時間でも定期的な面談、相談の時間をもうけ、自尊感情を育む支援を行います。 支援プログラムの具体例：カードゲームやボードゲームを通し自己理解や他者理解の支援に取り組み。ルールのあるゲーム（イス取りゲーム、じゃんけん列車、好きなものゲーム等）、カラオケパーティー、近くの公園まで集団でお散歩（交通ルール、マナーを守る）、駄菓子屋さんごっこ、スーパーでの買い物体験、カフェ体験、テイクアウトランチ体験、作業体験・福祉事業所体験					
家族支援	送迎時や支援時間内に必要に応じて学校やご家庭の様子を共有する時間を設け、かつ連絡ノートにて情報共有を行い、今後の療育支援に活かします。 定期的な面談を通して、日頃の様子や心配や困り感について相談援助に取り組み必要な情報を提供します。	移行支援	ライフステージの切り替えを見据え必要な準備を本人・保護者・関係する人と一緒に考えて行います。移行していく事業所等と連携し、支援内容や取り組み、本人や家族の意向、支援の中で大切にしたい事等を共有し引継ぎます。本人と保護者が次のステージに安心して移行できるように支援します。				
地域支援・地域連携	関係する機関と連携しこどもとご家族が安心して地域で生活できるよう日常の情報交換や会議等より必要な支援を考えます。地域の自立支援協議会（こども部会）等に参加し情報収集と連携、地域課題の改善・解決に努めます。 地域の人たちとの交流や社会体験の場を広げ、地域が安心できる居場所となるように努めます。	職員の質の向上	外部研修や法人内研修・事業所内研修に全職員が可能な限り参画し、各職員の能力や資質の向上を目指します。感染予防、防災、防犯、虐待防止、権利擁護、事故防止等に対する研修と訓練を定期的に行い、事業所の安全対策を行います。職員間で日々の支援の振り返りや気づきを大切に、支援の改善と向上を目指し毎日話し合いを重ねています。				
主な行事等	4月「新入児童歓迎会」 5月「端午の節句の遊び（お楽しみ会）」 7月「七夕行事」 8月「夏祭り」、「BBQイベント」 9月「敬老の日のイベント」 10月「スポーツイベント」 11月「ハロウィンイベント」 12月「クリスマスイベント」 「お疲れさん会」 1月「初詣・書初め」 2月「節分遊び」 3月「お別れ会」「プログラム終了イベント」						